

平成30年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した、特色ある教育の創出</p> <p>2 基礎学力を身につけるとともに、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、自らを高め、将来を切り拓いていくことができる生徒の育成</p> <p>3 郷土の自然や文化に学び、前向きに地域社会とかかわり、貢献しようとする姿勢を持つことのできる生徒の育成</p>	<p>1 学校の活性化案を示し、生徒・保護者や地域のニーズと期待に応える目標を掲げ、教育活動を推進した。本校の特色を活かした教育課程、学科編成を進めることができた。今後、活性化案を一つ一つ具現化していくことが大切である。</p> <p>2 前期選抜における京都市・乙訓通学圏からの普通科受検が可能になるなど、生徒募集を推進することができた。また、積極的に情報発信をすることができた。今後も生徒数確保に積極的に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>3 少人数の特色を活かした丁寧な個別指導を推進し、学力・能力の向上を図った。 今後も少人数のメリットを生かし、進路を切り開き生きる力を養う教育を推進する。</p> <p>4 個別指導、予備校サテライト講座の試行など学力向上や進路実現への対応を進めた。サテライト講座の本格実施や高大接続改革への迅速な対応が大切である。</p> <p>5 地域創生推進校として地域と連携し、地域に開かれた取り組みを積極的に行い、地域からも高い評価を得た。今後小・中学校との学校間連携を一層進めることが大切である。</p>	<p>1 学校活性化構想の具現化を進め、時勢や地域・生徒・保護者のニーズと期待に応える教育活動を推進する</p> <p>2 多様な生徒の実態に応じ、学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けた学力・能力の向上を推進し、生徒が学びの満足感を得られる学校づくりを行う</p> <p>3 生徒の進路希望の実現、進学実績の向上をめざし、主体的・能動的な学びに導く、質の高い教科指導を組織的に展開する。また、高大接続改革への対応を迅速・的確に行う</p> <p>4 小中高の連携を進めるとともに、学科や部活動など学校の特色を積極的に情報発信し、組織的、効果的な生徒募集を推進する</p> <p>5 「地域創生推進校」として、地域と連携し、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を推進する</p> <p>6 部活動のあり方を検討するとともに、更なる特色化、活性化を進める</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学校活性化構想の具現化に向けた計画的・組織的な学校運営	学校活性化構想の具現化を進めるための地域、関係機関との連携、調整の推進 部長会議を中心に、各種会議の効果的な運営と各分掌の連携を密に「チーム北高」として取り組む	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌、教科、各種会議が連携し、学校活性化構想の具現化が図れた。</li> <li>連携を密にし、組織的な対応を図るように努めた。さらに緊急対応においても組織的な対応を進めたい。</li> <li>計画的な校内研修を進められたが、校務等の多忙により他組織の研修への参加が困難な面があった。</li> <li>高大接続改革、新学習指導要領導入に向けた検討を進められた。</li> <li>地域創生プロジェクトや広報活動の充実が図れた。さらに、情報を発信し、本校の魅力を伝えたい。</li> </ul>
	質の高い教育の組織的な推進	OJT、校内研修、センター研修等の積極的受講（10名以上の受講）やタイムリーな情報提供による教職員の資質能力の向上	B		
	高大接続改革を見通した教育内容の一層の充実	高大接続改革、学習指導要領改訂を見据えた教育課程の編成、学習指導計画の検討の推進	A		
	地域連携の推進と積極的な情報発信	地域活性化の取組を中心とした積極的な情報発信、年間50回以上の広報活動の実施、生徒募集活動（中学校への訪問等）の推進	A		
教育課程の編成と実施	普通科、森林リサーチ科共に、3年間を通して育てたい生徒の姿が明確に伝わる教育課程の編成と実施	第1学年次共通履修、サテライト講座を活用した補習等、本校独自の学力向上システムの構築と学習指導要領改訂に向けた教育課程の再編成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度入学生より、普通科・森林リサーチ科共、第1学年を共通履修とする学力向上システムを構築できた。平成32年度末に向け、新教育課程に関する検討を進める。</li> </ul>
学習指導	学習指導に関する授業評価アンケートにおける肯定的な意見平均アベレージ85%以上の達成	教師が生徒を指導助言する時間を増すことを目的とした教育計画の精選、教育環境の整備 知的好奇心をくすぐる授業と家庭学習の相乗効果で実力をつける授業改善	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均アベレージ81.6%。教育効果を高める目的での週案作成、主管会議開催回数等の精選等を実現した。</li> <li>学校行事及び特別活動を精選し、授業時間数の確保に努める。</li> </ul>
進路指導	生徒の進路希望の実現、進学実績の向上をめざし、生徒一人ひとりに寄り添った希望進路達成のための支援	入試改革を見据えた指導の見直しと対策	B		
		各担任団と連携し、3年間を見通した進路指導の推進	B		
		学力の向上を目指した、平常講習・サテライト講座の効果的な実施	A		
		保護者向け進路講演会・見学会等の実施や情報提供の充実	B		
					<ul style="list-style-type: none"> <li>サテライト講座の実施にあたり、各教科にもお世話になり、スムーズに導入することができた。</li> <li>入試改革を見据えたポートフォリオの講習会や共通テスト対策模試を実施することができた。更に情報収集をする必要がある。</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成	「挨拶」「時間を守る」「身だしなみを整える」など当たり前のことが普通にできる学校生活とする ----- 規則違反やマナー違反・不正を許さず安心して安全な学校生活の推進 ----- 家庭・関係機関と連携した問題行動の未然防止と全教職員の一致した指導	A	B	B ・基本的な生活習慣と規範意識の養成について、立ち番や巡回等で声をかけを徹底し一定の成果が得られた。今後もより一層の意識改善に向けた工夫が必要である。 ・問題事象に対しては面談等により該当生徒に自発的に考えさせ、再発を防ぐことができた。教職員・保護者との連携については再度確認する必要がある。 ・安全教育について事故等はなかったが自転車に関する安全指導は継続的に行う必要がある。
	価値判断能力と自立性の養成	学校行事・地域行事への積極的な関わりによる人間力の形成	A		
	安全教育の徹底	家庭・地域と連携し、心身の健全な成長発達を目指した安全教育の充実	B		
特別活動	生徒会活動と部活動の充実	学園祭の一般公開等校外の地域活性化行事への意欲的参加 ----- 部活動の加入率85%以上を目指すとともに、部活動のあり方を検討し一層の特色化・活性化を図る	A	B	A ・生徒会を中心に全校生徒一丸となり文化祭・体育祭等の行事を成功に導いたことは大いに評価できる。今後も主体的な活動を継続させたい。 ・部活動は高い加入率を維持しているが、生徒減少に伴う部活動活性化への具体策を検討していく必要がある。
健康・安全教育	保健管理、保健教育の充実	各種健診結果に基づく指導、保護者連携を確実にし、必要な生徒の医療機関受診率を向上させる ----- 委員会活動を充実させ清掃時だけでなく普段の環境美化の意識向上へと繋げる ----- 社会情勢や生徒の状況を鑑みた保健学習を実施する	A	B	B ・健診結果に基づき医療機関への受診を促し、受診率アップに努めた。 ・普段の清掃、考査前清掃点検は定着したが、委員会活動でゴミ箱の清掃が行えなかった。 ・2年で「性教育」、3年で「歯の健康」の保健学習を行えた。 ・何をもちて成果と見なすかが分かりにくく、生徒の状況交流と対応策を共有するにとどまっている。
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の工夫と充実	学年・分掌・教科等との連携により生徒の状況を把握し、保護者連携、専門機関への相談も視野に入れながら合理的配慮に基づく指導へと繋げる		B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
人権教育	生徒の人権感覚を育てる	生徒の実情に即した人権教育を実施することによる、人権を尊重する姿勢や差別を許さない態度の育成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権HR学習は、計画どおり実施できた。(各学年年2回)</li> <li>・教職員向け人権研修会を2回実施した。(LGBT、同和問題)</li> </ul>
	関係分掌との連携を密にする	関係分掌と連携した課題に対する適切な対応	B		
	教職員研修の充実	教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取り組みの推進	B		
家庭・地域との連携	地域連携の推進と取組の充実	地域から信頼される「地域創生推進校」を目指し、地域やPTAと連携した魅力ある学校づくり	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取り組みを発信するための広報は計画的に行えた。</li> <li>・地元や他校種連携も計画的に行えた。</li> <li>・PTA 活動は連携し円滑に行えた。</li> <li>・悪天候で文化祭での地域連携が計画縮小となった。</li> <li>・新聞、テレビ等で活動の様子と北桑田の魅力を発信できた。</li> </ul>
	北桑田高校の取り組みの広報活動	「KITAKUWADA STYLE」・「PTA だより」・HP更新・PTA メール等の広報発信をタイムリーにし、「みがく。かがやく。」の実践を発信する	A		
活性化推進	生徒募集における寮の受け入れ態勢と下宿の確保	寮生、下宿生合わせて25名分の確保を目標に新規開拓に取り組む	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集における取り組みでは手応えを感じたが、新たな下宿開拓ができず、寮の定員の問題をクリアすることができなかった。</li> <li>・部活動を前面に生徒募集したが寮の定員問題がネックとなった可能性がある。</li> </ul>
	部活動の更なる活性化と連携した生徒募集	部活動で15～18名の生徒確保を目標に、特色を活かした新たな活動を推進し、中学校等との連携に取り組む	B		
	府下全域、全国からの生徒募集にかかわる取組の推進	府内全域、特に京都市・乙訓地域での生徒募集の取組を継続的に行う	B		
学校図書館	学校図書館の活用を通し、“生きる力”の醸成、豊かな読書生活への助長	読書活動の推進 読解力の向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科活動への援助・文献レファレンス(読書相談)に努め、貸出冊数増加(一人あたり8.3冊)、貸出分野の拡がり、授業活用の増加となった。</li> <li>・今後蔵書の充実を図り、生徒の資質向上・進路実現に寄与していきたい。</li> </ul>
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	学年・教科・分掌と連携し、少人数を活かした調べ学習への資料提供ならびに文献検索の推進	B		
		郷土に関連する文学・文学者を中心に、地域全般に関わる資料の収集・展示	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
農場部	効率的・効果的な農場運営	農業クラブ活動・各種の研修会への参加や資格取得の奨励及び技術向上の推進	B	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・府連大会の早期活動及び内容拡充が図れ、ブラッシュアップができた。</li> <li>・台風21号の襲来に伴い、校内の見本園にも甚大な被害をもたらした。職員の迅速な行動や総合実習によって安心安全かつ効果的な学びの環境を活用し、災害対応における実習や森林環境の復旧に努めることができた。</li> </ul>
		安全管理能力を高め、安心・安全な実習環境の推進	A	
		農業クラブ府連大会の活動内容のブラッシュアップ推進 ドローンを活用した新たな取組 農場部の効率的・効果的な運営に努める。	A	
寮務部	円滑な寮生活を送るための、規則・ルールの徹底	寮生徒との対話を充実させた愛情ある指導の推進と規則厳守させるためのきめ細かな生活指導の徹底	B	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には、ルール・規則は守れてはいるが、個々との対話の充実、生活習慣の向上が必要。</li> <li>・一部設備の増設は図れたが急速に老朽化している設備充実が課題。</li> </ul>
	生活環境の維持及び施設の充実	施設・設備の点検、改善による環境整備の充実	B	
事務部	生徒が入学して良かったと思われる教育環境づくり	安心安全な施設設備の維持、老朽施設の改修を進める	B	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内各所に目を配り、安全な施設設備の維持に努めた。</li> <li>・寄宿舎においては、寮務部との情報を密にして改善に努めた。</li> <li>・事務室便り等も定期的に発行でき、情報発信とともに、分校との情報共有も図れた。</li> <li>・台風による復旧が十分できないことが次年度の課題である。</li> </ul>
		寄宿舎の施設、設備の改善	B	
	学校運営への参画	事務室からの積極的な情報発信、分掌教科との情報共有	A	
		分校との情報共有	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第1学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成	充実した学校生活をおくるために必要な、落ち着いた集中できる授業及び生活環境の確保 服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてのふさわしい態度、および自己と他者の双方を尊重する規範意識の育成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初より落ち着いて集中した学校生活がおくれるようになってきている。</li> <li>・1年生ながら文化祭や体育祭を積極的に取り組み活躍できた。</li> <li>・資格取得に対する意識が高く、英検やワープロ検定を多数の生徒が受験した。</li> <li>・他の生徒を尊重し大切にすることや自分の生活習慣を確立する取組の少し甘い生徒が見受けられる。</li> </ul>
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加	家庭学習習慣の定着と、基礎学力の向上 部活動への積極的加入の促進 学習との両立をはかるための、分掌・教科・地域・家庭との連携 支援を要する生徒への適正な対応	B		
第2学年	希望進路実現のために主体的に学習する姿勢と能力の育成	年間を通じて家庭学習時間の調査を行い、それに基づいた指導を徹底する 進路に関する取り組みを充実させ、系統的、計画的な進路指導を推進する 適切な時期に面談を行い、具体的な希望進路の把握、および実現への情報提供を行う	B B A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間調査は、継続実施し、生徒の意識を少しは、高めることができたが進路指導に関しては、まだまだ計画的に進められたとはいえない。</li> <li>・全員と面談し、進路希望を把握することができ、適宜指導することができた。</li> </ul>
	家庭・地域社会との密接な連携	全校清掃、文化祭などの諸行事を通じて、地域社会への貢献を図る 月1度の割合で「学年便り」を発行するなど、様々な機会を通じて家庭との連携に努める	A A		
第3学年	希望進路の実現に向けた取り組みの充実	担任・保護者・進路部との連携を深め、生徒個々に応じた適正な進路指導の推進 日々の授業をベースに、補習・模擬試験等を積極的に活用し、確かな学力の向上	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、進路指導部との連携を図りながら個々に応じた進路指導を行い、進路実現に向かって指導に当たることができた。</li> </ul>
	生きる力を身に付けさせる	日々の生活から人間性を磨き、社会で必要とされる人物の育成 自他を尊重し、人を思いやる心の育成	B B		

教科領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
国語科	基礎的国語力の養成	漢字、語彙など言語事項の反復学習 文章の精読による、読解力の養成 主体的な言語活動を通じた記述力、表現力の養成	A B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な言語事項の反復学習や各科目での文章の精読を通じて基礎的国語力の定着に努めた。また、短歌コンクール等への積極的な参加を通じて表現力の向上を図るとともに、入賞者も出すことができた。</li> <li>個別指導では進路実現のための実践的な言語力の育成を図ることができたが、授業内での小論文や面接を見据えた書くこと、話すことの指導の一層の充実も検討したい。</li> </ul>
	表現領域にも繋がる読書指導	夏休みの読書感想文等による読書指導 各種作文コンクールへの応募 調べ学習などでの積極的な図書館利用	B A A		
	進路を実現できる実戦的な力の育成	授業と補習の効果的な連動 小論文、面接につながる書くこと話すことの指導 スピーチや発表を取り入れた授業の実施	B B A		
地歴・公民科	年間指導計画やシラバスに基づいた系統的な授業の展開及び授業規律の徹底をめざし、基礎学力の充実と発展的な学力の向上をめざす。	教科書を中心に補助教材や基本問題を通しての基礎学力の充実 応用問題やレポート課題を通しての実践的学力の向上	B A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目において、小論文や意見発表など表現力を磨く機会を設け、また地域教材を積極的に活用するなど、実践的学力の向上に努めた。結果、小論文コンテスト等で多くの入賞者を出すことができた。</li> <li>教科でサテライトを全て視聴し、学習進度や入試対策に活用することができた。成果として、センター試験では地歴・公民ともに得点の高い伸びが見られた。</li> </ul>
	生徒の興味関心・主権者意識を高め、理解を深めるような教材や指導方法の工夫をめざす。	生徒の学力や興味関心の実態を把握した、適性な自主教材の開発や、現代社会とのつながりを意識した学習 実物教材や視聴覚教材の開発、利用の積極的な推進 ディベート等の表現力を磨く機会の設定	A A B		
	進路指導部の計画に沿った進学補習の充実 放課後等に個に応じた指導の実施 定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着 必要に応じて応用力の充実を推進	A B B B			
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、希望進路実現へと導く。	進路指導部の計画に沿った進学補習の充実 放課後等に個に応じた指導の実施 定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着 必要に応じて応用力の充実を推進	A B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常補習や長期休業中の補習は、数学科全員で指導するという充実した体制で取り組めた。</li> <li>家庭学習を意識した課題を作成し、基礎学力の定着に努めた。</li> </ul>
理科	基礎学力定着のための学び直しの充実および、全ての生徒がわかる授業にむけた工夫	各分野の特性、生徒の状況に応じて高等学校以前の知識を復習し、基礎学力向上を目指す。また、全ての生徒がわかる授業のために、板書やプリントの作成、実験での説明を動画にするなどの工夫を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルビ打ちやプリント学習、学び直しなど生徒の状況に合わせた授業を行うことができた。ただし、生徒によっては配慮を必要としない場合もあり、多くの生徒にとって適切な授業形態を検討していく必要がある。</li> <li>演習や小テストなどで基礎学力の定着を図ったり、実験や ICT 利用によって興味関心を向上することができた。さらに多くの授業において工夫していく必要がある。</li> </ul>
	基礎学力の定着と興味関心を引き出す授業の工夫	演習・小テストの適切なタイミングでの実施による、生徒の活動の増加 計画的な実験・観察の実施や、ICT教材の効果的な使用による、生徒の学習意欲を向上させる工夫の推進	B B		

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	規律ある効率的で個々に応じた授業展開による 体力と運動技能の向上 生涯にわたり健康的な生活をおくるための意識 の定着	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な授業規律のもと、大きな事故もなく安全に授業が展開できた。</li> <li>・生徒の意欲も高く、運動技能や技術・体力が向上した。</li> <li>・選択授業におけるリーダーに対する指導を適切に行い質の高いグループ学習を行えた。更にフォローアップを育成できるよう働きかけを強化していく必要がある。</li> <li>・健康運動では来年度ボルダリング施設をうまく活用したい。</li> </ul>
	身体活動をとおして主体性・実行力・状況判断力・思いやりの心を磨く	コミュニケーション力と周囲への配慮・優しさの育成 自主的・意欲的に取り組むことによるリーダーシップ・フォローアップの育成 健康運動では地域の資源を最大限に活用し生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成	B	A	
芸術科	分かる授業のための授業改善	芸術表現の基本技術の習得 芸術作品の基本的な鑑賞力の育成 無理のない年間指導計画の作成 芸術を愛好する気持ちの育成	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視を大切にし、個々のニーズに則した指導ができた。</li> <li>・前年度の優秀作品を常時展示する事で、作品制作に対する意識を高めることができた。</li> </ul>
英語科	基礎学力の定着	日々の授業と家庭学習の連動 ALTの積極的な活用やスピーチコンテストの実施等による4技能の育成	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4技能の育成に重点を置いた授業や資格・検定試験を通して、生徒の英語学習への意欲が向上した。</li> <li>・サテライト講座を活用した授業展開は改善の余地が十分にある。</li> </ul>
	進路指導の充実	実用英語技能検定(準2級以上)の取得、GTEC等の実施に向けた個別指導 サテライト講座の効果的な活用	A	B	
家庭科	生徒が生活者として自立・共生する力を育む	世の中の動きを捉えた生活の感性を磨くテーマ設定と、生活者として必要な知識・技術の指導 地域・企業との連携や様々な事業の活用による主体的かつ実践的な学習機会を多く設定	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流や外部講師による特別授業を積極的に取り入れ、実践的な学習の機会を多く設けることができた。</li> <li>・今後の生活の基盤となる力を養うため、生徒のニーズを把握し教材の充実を図ると共にアクティブラーニングの機会を更に増やしていきたい。</li> </ul>
	分かりやすく生活に役立つ授業の工夫	生徒の実態やニーズを把握し、効果的な授業の進め方や各種教材の工夫を実施(視聴覚教材の活用、実習やグループワークの充実など)		B	
情報科	魅力ある教材の作成	生徒に応じた教材の選定(屋久島研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど)	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島研修への事前学習や朝読書など、学校行事と連携した教材で、学習することができた。</li> <li>・情報セキュリティの標語を作り、応募した。</li> </ul>
	情報の科学的理解	情報モラルやセキュリティ、最新機器に関することを実際の事例とともに理解を深める	B		



教科領域		重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
農業科		自ら考え、行動できる力と生きる力 ・仕事力を身につけさせる	各種イベント、発表会、国内外の研修に参加させるなど、実体験に基づいたプレゼンテーション能力を身に付ける ----- 充実した授業を展開し、質の高い学習活動を行う ----- 資格取得の奨励指導及び推進に務める	A A B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度のイベントや発表会、国内外の研修に参加させるほか、京都市の防災訓練や新規の企画に参加して幅広い社会体験や実体験に基づいた活動実績とプレゼンテーション能力を養えた。</li> <li>・台風による森林被害の実働体験をから、現在求められる健全な森林環境や育林の重要性を実働による見識から学習に繋げることができた。</li> <li>・資格取得の奨励に努めたが、前年度以上の実績と取得人数を達成できなかった。</li> </ul>
		学習意欲の喚起と授業規律の確立を図る	個々に応じた丁寧な授業を行い、事前補習等を計画的に行い、持続的な学習活動を身に付ける ----- 個々の学習課題を最後までやり切らせる ----- 授業規律の指導強化・社会人マナーを養う ----- 放課後の進路指導・資格補講の充実を図る	A A B B	A	
総合的な学習の時間	第一学年	ふる里北桑田への郷土愛を深め、地域的特色を理解する	地域の歴史や伝統についての講演を聴くことによる地域への理解を深める ----- 校外学習で実際に見聞することによって、地域への関心・理解を深める ----- 学習したことを生徒自身の言葉でまとめること ----- によって学習の効果を高める	B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美山かやぶきの里、アントレプレナーシップ授業では、郷土愛を深め、主体的に課題を発見し解決する力を育めた。</li> <li>・身近な内容やグループで調べた内容を、英語を通して自らの言葉で発信しようとする姿勢を養った。</li> <li>・表現力の向上については観光プランコンテスト準グランプリという成果を得た。</li> <li>・「地域社会」「自己追求」「表現力」といったものをもっと活動の中で一体化させ、教科目標に沿う意識や力の育成を明確な形で残すことが今後の課題である。</li> </ul>
	第二学年	海外の文化を学ぶことにより自己を取り巻く環境を客観視し、地域的特色についての理解と認識を深めるようにする	実践的な英語による、国際的な発信力の育成を目指したスピーチ発表の実施	B	B	
	第三学年	地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め、地域の魅力を発信することによってコミュニケーション能力や情報を取捨選択してまとめる力、表現力の育成をめざす	観光プランコンテストに応募・参加することによる学習への意欲の向上 ----- 実際にプレゼンテーションをすることによる、表現力の向上	B A	B	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備校サテライト講座の実施やボルダリング施設の設置など活性化構想の具現化が進んでおり、力強く感じられる。</li> <li>・地域全体の少子化など厳しい条件の中で、少人数を活かし進路実現や個に応じた指導の推進などを進めている。</li> <li>・地域からの大きな支援が集まるなど、地域からの期待は大きい。地域への情報提供や地域との交流、特に地域の小中学生、保護者に学校の良さをもっと知ってもらうための取組を更に進めてもらいたい。</li> <li>・地域の子どもらに選ばれるよう魅力化を進めるとともに、進路実績を上げられるよう努めてもらいたい。</li> <li>・他地域からの北桑田高校で学ぶことを希望する生徒が多く、寮教育に対する期待が大きい。生徒数の確保を含めて、寮の必要性を感じており、寮の整備を進めてもらいたい。</li> </ul>
<p>次年度に向け た改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数を活かした個に応じた学習指導、進路指導を進めるとともに、予備校サテライト講座、進路講習、模試等を効果的に活用し、入試改革に対応した学習指導、進路指導を構築する。</li> <li>・地域の小中学校との連携の推進、タイムリーな情報発信、活性化構想の具現化と効果的な活用など、地域の小中学生、保護者に対し本校の魅力を伝える取組を進める。</li> <li>・寮の整備、全国募集、部活動の特色化など、他地域からも含めた生徒数の確保に向けた取組をすすめる。</li> </ul>